

名古屋大学教育学部附属中学校
中等教育研究協議会
中学校シンポジウム「移行期の総合学習の課題」

「総合的学習初年度の取り組みから」

愛知県安城市立安城西中学校 柴田富子氏

クローズアップ現代 6月に放映された。
NHKが期待したもの うまくいっていないところ、
困っているところを撮ろうとした。
教員は36人。教科で進める、行事で進めるかを考えた。
子供の力を育てる。担任が行うことにした。本はでき
あがったもの。いい学校の取り組みは見ないでおう
とした。
私たちにしかできないものを試行錯誤してやってい
こうとした。
始めたのが4月。とにかく子供を見る。教科書も指導
書もない。
課題はどうやるか、教師の4月
例 教師が環境に対しどれくらいの重みがあるかを語
り合った。それについてどう感じるか、経験がない。
そんなところから、教師がまず勉強しようとした。私
たちが勉強を始めた。本を買い、新聞を読んだ。日曜
日に色んなところに出かけて、VTRをとってきた。
最初は「テーマユニット」ということで、環境につ
いてが取り組みやすいのではないかとということで取り上
げた。安城市やはぎ川の上流にキャンプ地があり、1
年生がそこにキャンプに行く。
1年生：流域社会 山から海まで
2年生：身近なゴミ問題
3年生：地球規模の環境問題
あとは、担任に任せた。
5月の連休には教師は色んな準備をした。
そして、最初の授業が行われた。課題を設定させるた
めの授業を持った。それでも課題が決められない生徒
がいた。やっと子どもが課題を持ち始めるまで、1ヶ
月かかった。5月中旬。
実際に子どもたちに菊と「ダイオキシンについて」「温
暖化について」等の言葉が返ってきた。今までに40回
近くの協議会をもった。
課題設定には、問いかけが大切。どうして？なんで？
もう一度など。もう一度生徒に返すようにした。どの
授業についてもいえる変革ではないか。
子供たちが少しずつ変わっていった。
子供の奥にある心を引き出す。
子供が職員室にやってくる。アポを取って聞きたいこ
とをいっぱい聞いてくる。教師は思いきって「行って
らっしゃい」と外へ出す。

聞いてくると、発表したくなる。中間発表を持った。
知識ばかり知ってきて、自分の考えが入っていない
ことに気がついた。それでいいの？調べ方を考えたら
いいの？自分の考え方を持つことが総合学習の中
では大切ということを確認した。

話がだんだん進んでいく。
上手にまとめる子がいる。楽しい実践をする子
がいる。それぞれのよさ、その子なりの良さだから、
とにかく認めていこうとした。

強い動機があれば、進めていけることが9月に
確認できた。

例：教師が放置自転車のことを話しても、放
置自転車に注目したのはたった一人の生徒だけだ
った。「この放置自転車はどうなってしまうのか
考えたら、夜も眠れなかった」と言った。

(15分で時間切れの司会者の合図)

「総合的な学習と統合カリキュラム」

信州大学教育学部附属長野中学校 徳武隆夫氏

(PCを使っている発表だが、画面が大きすぎてス
クリーンからはみ出し非常に読みにくい発表とな
った)

学校規模 1学年6学級

生きる力をはぐくむ教育過程

1年【いのち】成長する私の心と体(前期)いのち
(後期)

2年【夢に生きる- DISCOVERER -】(前期)ヒロシ
マに学ぶ(後期)

3年【21世紀に生きる】私の未来予想図(前期)学
級自由題材(後期)

2年生の取り組み例：

14歳の問い：人生を通して学ぶとは

夢を追い続けている社会人との違い

「目標を持っている人は輝きが違った」

仕事を任されていることの意味

働くこと=学ぶこと、これが社会体験――

人生を通して学び続けることを大切にしたいと
言った。

ポートフォリオを活用した評価

ワークシートを活用した面接法

生徒の真の学びとの出会い→指導観や教育過程
観の転換→改善・修正

「総合学習の発展と新たな課題」

名古屋大学教育学部附属中・高校 丸山豊氏

誰がやるのか？という基本的なところでもめる。
校長はやらなくてよい、後はみんなでする。